

本日の問い

『東南アジアでは、気候を生かしてどのような生活文化が育まれてきたのか？』

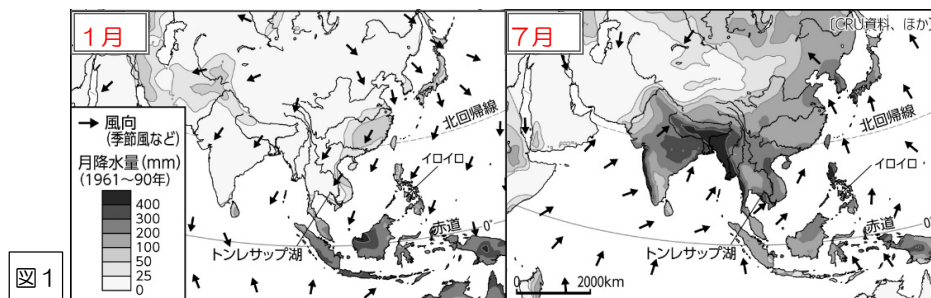
問いの答え [学習前の予想]



7 モンスーンの影響と人々の生活 教p.76-77

例①

トンレサップ湖岸の高床住居



① 図1の左の図と右の図は、1月と7月のどちらか？そのように判断した理由は？

左：1月 風向（＝季節風）が大陸から海に向かっていているから

右：7月 風向（＝季節風）が海から大陸に向かっていているから 資p.45

② 風の吹く向きによって、降水量はどのように変わるか？その理由は？

海から大陸に風が吹くと、湿った風になり、降水量が多くなる → 大陸は7月が雨季

大陸から海に風が吹くと、乾いた風になり、降水量は少なくなる → 大陸は1月が乾季

夏の場合



教科書p.76-77を読みながら、次の文章に適語を記入しよう

■東南アジアの気候は① 季節風（モンスーン）の影響を受けており、インドシナ半島では、5～10月ごろに海から大陸に向かって、南西の湿った風が吹くため② 雨季となる。一方、11～4月ごろには、大陸から海に向かって、北東の乾燥した風が吹くため③ 乾季となる。

■①によってもたらされた雨が流れるメコン川やチャオプラヤ川などの河口付近には、巨大な④ 三角州（デルタ）が発達している。

■変動帯に位置するインドネシアやフィリピンの島々では多くの火山がみられる。

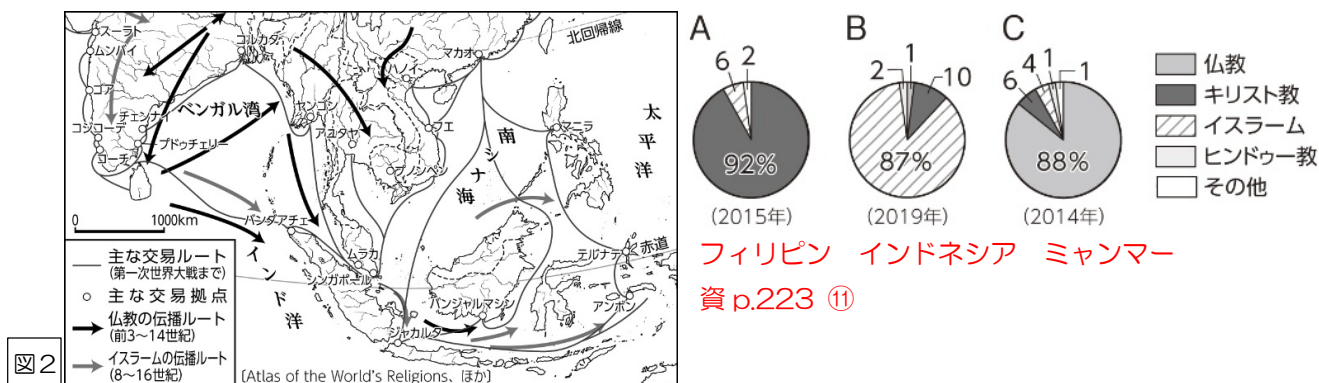
■東南アジアは季節風を利用した船の往来が盛んで、古代から海の交易が行われ、多くの人々が渡来し、言語や宗教・芸術・社会制度など、さまざまな文化をもたらしえてきた。宗教を例にすると、インドから伝えられた⑤ 仏教はタイやミャンマー、カンボジアにおいて、現在でも人々の生活に大きな影響を与えている。また、ムスリム商人がもたらした⑥ イスラーム（イスラム教）は、交易の拡大とともにマレー半島やインドネシアの島々に広がった。

■交易や植民地化の歴史を通して、東南アジアの国々は多くの民族が混在する⑦ 多民族国家となった。例えばマレーシアでは、マレー系住民のほか、⑧ 華僑や⑨ 華人とよばれる中国系住民やインド系住民も多く、政府は中国系住民と現地のマレー系住民との経済格差を是正するために、プミプトラ政策を導入し、民族の共生を図ってきた。

[Work & Question]

Work 1 左下の図2の「仏教の伝播ルート」を赤、「イスラームの伝播ルート」を青でなぞろう教p.77

Question 1 右下の円グラフA～Cは、インドネシア、ミャンマー、フィリピンのいずれかのグラフである
グラフA～Cに当てはまる国をそれぞれ答えよう 資p.222で国の位置を確認・図2と比較



Question 2 仏教の伝播ルートとイスラームの伝播ルートの違いについて、
左ページの図1も参照して、30字以上60字以内で説明しよう



仏教は陸上を中心に伝播しているのに対し、イスラームは海上をモンスーンを利用して
交易した際に伝播している。(52字)

POINT

- ・ 東南アジアの気候と生活文化との関係
- ・ モンスーン を利用した交易と宗教の伝播

季節風(モンスーン) 雨季 乾季 三角州(デルタ) 変動帯 仏教 イスラーム(イスラム教)
多民族国家 華僑 華人 ブミプトラ政策

本日の問い

『 東南アジアでは、気候を生かしてどのような生活文化が育まれてきたのか? 』

問いの答え [学習後のまとめ]



▼ 振り返り (できたら☑をつけよう)

- ☐ 問いの答え [学習後のまとめ] を“自分の言葉”で書く
- ☐ Googleフォームに回答 今回の授業のフォームの回答はありません

2年 組 番 名前